

ビーンズレター

ジョージワシントンは歯無し家だった！？



左；1775年独立戦争中のジョージワシントンは、その苦難とともに、彼自身もう1つの悩みを抱えていました。それは歯の悩みでした。右；14年後アメリカ合衆国初代大統領に就任したときのものです。戦いの最中ながら、入れ歯の具合の悪さを歯科医に訴えた書簡が、今でも残されています。大統領就任時にはついに左下小臼歯一本残るのみとなり、入れ歯もすっかりいかず、口元を無理やり閉じている富士全中たちがうかがわれます。

あなたは大丈夫？

想像してみてください。目の前にご馳走があります。ご馳走を見て、アーおいしそう、アーいい匂い、食べたいさー食べようと脳が認識して、食べる動作が始まります。そして食べ物を口に運びます。すると、筋肉が伸びたり縮んだりして、顎の関節を動かして、歯で食べ物を咀嚼します。そして「アーおいしい」めでたしめでたし、ということになるのですが...

食べることは、中枢、咀嚼筋、顎関節、歯がポイント！



でも、このとき、さー食べようと認識する鉄腕アトムの子電子頭脳が壊れていたらどうなるでしょう。食べる期さえ起きません。

でも、このとき、パンツのゴム（顎を動かす筋肉）が伸びていたり、縮んでいたらどうなるでしょう。ゴムひもが変えられればいけれど



ジョージワシントンは歯無し家だった！？

替えられなかったら、イブ・サンローランのパンツでもあなたは捨てますか？



でも、このとき筋肉が伸びたり縮んだりしていても、ドアの蝶番（顎の関節）が壊れていたらどうなるでしょう。まさか、開いた口がふさがらないままにしておくわけには、いきません。

でも、このとき、筋肉が伸びたり縮んだりして



顎の関節を動かして、さー食べようとしたとき、刃こぼれしたはさみ（歯）だったらどうなるでしょう。そう、紙（噛み）切れませんね。

あなたなら、こんなときどうしますか？

まず第一にむし歯があればむし歯を、入れ歯が壊れていれば入れ歯を、歯周病があれば歯周病を治し、さらに顎関節がおかしければ顎関節を治していきます。



さあ、おかしいところが治ったところで、次に仮り歯や仮の入れ歯を使い、衰えた筋肉を鍛えながら噛み癖を直していきます。

そして、晴れて、回復した機能にあわせて、歯にクラウンを被せたり、インレーをつめたり、歯のないところはブリッジでつなげたり、入れ歯を入れて噛める状態を再現します。口の機能が壊された状態によっては、治療期間も有に一年以上に及ぶことがあります。

やっと食べれるようになったけれど...

これだけ苦労したのだから、長持ちさせたいと思うのは、歯医者さんだけではないと思うのですが...最後に秘訣をお教えしましょう。

口も体の一部です、まずは健康を保ちます。歯だけでなく、入れ歯や土手の手入れをします。健康が維持されているか、定期的にチェックしてもらいましょう。どうです、これであなたも歯医者さん要らずでしょ！